

N o	項目	委員会	意見	当日の回答	対応状況	今後の対応
1	収集したデータの共有・活用	第 3 回 第 4 回	・各部会で集めた情報をどのように管理していくか。 ・長期保存、活用という観点から、最初の段階でルールを策定しておくべき。 ・データ共有、集約のためにも、外部のUSBが使えない状況の解決に向け取り組んでもらいたい。	・部会でも十分に議論できていないため、現時点で県史全体の方向性をお示しできない状況にある。 ・来年度の導入に向け、クラウドの予算要求をしている。 ・委員に意見を伺いながら活用方法を検討していきたい。	△	・クラウドの導入により一定対応可能。議題であるクラウドにて説明をさせていただく。
2	第 1 期計画の成果報告等	第 4 回	・第 1 期の成果報告のコンセプトと県史編集に関する基本的な考え方を共有したい。	・資料調査等、専門部会の活動を通じて県史の魅力をアピールし、県民の世論を味方につける視点が必要。 ・次回以降、第 1 期の成果報告及び公開方法を議論していきたい。	△	・本日の第 5 回編集委員会での協議をスタートとして、来年度中に具体的な内容や編集体制などを固めていく。
3	県の外郭団体との連携	第 4 回	・市町村に加え、高知県文化財団や土佐山内記念財団など、県の外郭団体とも積極的な連携が必要ではないか。	・両財団の協力は不可欠であり、例えば文化財団の現職 2 名が民俗部会に入っている。 ・今後は人的な交流だけでなく、写真撮影等、調査の協力体制を進めていく。	△	・例えば人材育成では、土佐山内記念財団の協力を得て、調査の補助を行う大学生等の養成を進めている。 ・今後は各財団の本来業務に配慮しながら、資料情報収集等の協力体制を更に進めていく。 ・財団職員の協議や調査の関わり方については、具体的な要請の後に検討させていただく。財団の本来業務に影響しないよう可能な限り支援を要請していきたい。
4	考古部会の業務委託	第 4 回	・考古部会では特殊技能を伴った調査が必要。 ・実戦経験が豊富な高知県立埋蔵文化財センターに業務委託することは可能か。	・埋蔵文化財センターは文化財団の組織で、県の業務委託を受けることは可能。 ・センターに高知県史に携わる人員の配置が可能かどうか検討が必要。 ・令和 6 年度の考古部会設置に向けて、調査すべき内容を精査し、業務委託が最も効率的な方法であるか検討する。	×	・技術的には可能であるが、県から公益財団法人等へ業務委託を行うことは難しい。 ・高知県立埋蔵文化財センター等の関連施設との連携を深める等、各部会の要望に応じた調査ができる体制づくりに努めていく。
5	専門職員の採用について（考古部会）	第 5 回	・来年度設置予定の考古部会に向けて、専門職員の採用についてどのように進んでいるのか。	・専門の職員が必要であることは理解している。しかし、事務局（歴史文化財課）のみで採用が決定される訳でないため、総務部とも協議を進めて、議論が固まり次第ご報告させていただく。	○	・埋蔵文化財に係る専門職員 1 名の採用を計画（令和 6 年度採用予定）している。県の専門職員のうちから適任者を配属するよう進めていきたい。
6	関田資料について	第 5 回	・関田資料について、近代や現代の資料もあるのではないか。	（委員） ・主に自治体史編さんの研究で収集されたのは近世のものであるが、高知大学の戦後の成立からその後に関係する資料もあった。 ・所蔵者より調査の承諾は得ておるので、他部会との調整をしながら調査が可能と思われる。	○	・今年 9 月の近世部会調査では、関田英里氏収集史料を調査する予定。
7	関係団体とのデータ共有について	第 5 回	・県が関連する資料館や美術館等のデータ管理・整理はどのような状況か。	・関連する団体のデータベースにある情報が公開可能なものも含めて、今年度から来年度にかけて各館と調整を行っていく。	△	・令和 5 年度はまず県立施設を対象とした、各館のデータ整備状況の把握及び公開に向けた協議を進めていく。 ・また同時に令和 6 年度以降は、把握・整理された資料のデジタル化及び展開の仕方について検討していく。
8	震災が発生した際の県史の対応について	第 5 回	・実際に震災が発生した際の県史の対応について、事前協議が必要ではないか。県史としての資料保存場所等について協議しておく必要があるのではないか。 ・どこかの段階で部会から意見を聴取した上で、事務局より提案いただきたい。		△	・資料は原則データ収集であるが、一時的な借用は予定しており、一定の一時保管スペースを設けている。 現在の編さん室への移転にあたっては、直接の被災を免れる可能性が高い場所を選定しているが、活動の継続性も視野に入れて、将来的には検討を行いたい。

近世部会 活動報告

(1) 第2回部会調査報告

史料群名

- ①「山中家文書」(芸西村 芸西村文化資料館蔵) ※第1回部会調査(R4.9)から継続
- ②「足達家文書」(芸西村 芸西村文化資料館蔵)
- ③「関田英里氏収集史料」(個人蔵)

史料群の概要

山中家文書…安芸郡芸西村の久重山地区で村役人(名本)を勤めた山中家に伝来する史料群。
同家系図書によると、戦国以来の旧家であり、近代以降も山間部の地主を勤めた家柄である。

足達家文書…安芸郡芸西村の久重山地区で村役人(名本)を勤めた足達家に伝来する史料群。

関田英里氏収集史料…高知大学元学長 関田英里氏所蔵していた史料群

調査の日時、場所及び人員

日 時：令和5年3月17日～20日

場 所：高知市立龍馬の生まれたまち記念館 ふれあいホール

調査人数：総勢27名

(監修者・部会委員8名・院生10名・県内学生6名・事務局2名)

調査の方法

調査カード…史料1点ごとに調査カードを作成【参考資料 6-1】

史料撮影…ターゲット、カラーチャート、スケールを入れて撮影【参考資料 6-2】

史料点数

山中家文書…約1300点(撮影済み史料点数：286点)

足達家文書…約880点(※第2回部会調査では未撮影) 合計 約2200点

調査の結果

- ・山中家文書、足達家文書ともに調査終了
- ・関田家史料は概要調査のみ。(分類分けを実施、『室戸市史』掲載史料カ)
※9月の部会調査で詳細調査を行う予定
- ・未撮影史料、山中家文書・足達家文書の仮目録作成
→令和5年4月14日より県内の学生中心に編さん室で撮影開始。

(2) 令和5年度第1回近世部会報告について

- ・第1回近世部会では令和5年3月20日～5月12日までの作業報告
→維新班、事務局作業報告(撮影・史料カードの見直し)、今年度の予定等

- ・史料調査は山内家史料や高知城歴史博物館が撮影した他機関の史料写真を閲覧
→高知城歴史博物館のデータベース（目録・画像データ）の利用について近世部会だけでなく、県史編さん室として今後対応が必要
- ・中世から近世、近世から近代の移行期の史料の取扱などについて
- ・人材育成について
人材育成の一環として「秘録御用手引牒」（山中家文書 99-2、芸西村文化資料館蔵）の翻刻作業を実施
令和5年9月の調査に向けて史料カード採録の練習

（3）今年度の予定について

- ・第3回部会調査及び近世部会
日 時：令和5年9月5日（火）～9月8日（金）
場 所：高知城歴史博物館 ホール
史料群：関田英里氏収集史料

【調査作業写真】



【関田英里氏収集史料】



【近代部会】活動状況

(令和 5 (2022) 年度の活動)

1 近代部会：4 回開催 (6 月、9 月、12 月、3 月)

2 第 1 回合同調査

(1) 調査資料

旧池川町役場資料 (所有者：仁淀川町)

(2) 資料群の概要

旧池川町役場 (現仁淀川町池川総合支所) 2 階で保管されてきた役場関係文書。

明治以来の高知県公報類、吾川郡令などを中心に、土地関係資料、教育関係資料、寺社関係資料などで構成。

(3) 調査の日時、場所及び参加者

日 時：9 月 12 日 (月) ~ 14 日 (水)

場 所：仁淀川町池川総合支所

参 加 者：全委員、事務局、高知大生アルバイト

(4) 調査の方法

- ・部会委員による資料の概要確認。撮影資料の選定。
- ・学生バイトによる県公報類の撮影。

(5) 調査した資料数 約 670 点

- ・このうち委員が選定した全冊撮影予定資料数 143 点、一部撮影予定資料 122 点

(6) 撮影作業進捗状況

- ・9 月調査での撮影済資料：約 50 点
- ・令和 5 (2023) 年 5 月 20 日現在の撮影済み点数

全冊撮影資料 142 点 一部撮影資料 13 点



旧池川町役場資料

3 第2回合同調査

(1) 調査資料：①『安芸市旧役場文書目録』収録資料、②『高知小津高校資料』

(2) 資料群の概要

①旧川北村を中心とする役場資料（明治末～昭和）

②旧制海南学校（海南中学）及び新制小津高校の学校資料

(3) 調査の日時、場所及び参加者

日 時：3月7日（火）～9日（木）

調査会場：高知市立自由民権記念館

参 加 者：全委員、京都大学院生、事務局、高知大生アルバイト

(4) 調査の方法

- ・部会委員による資料の概要確認。撮影資料の選定。
- ・学生バイトによる県公報類の撮影。
- ・谷川委員及び院生による学校資料の目録作成。

(5) 調査した資料数

- ・『安芸市旧役場文書目録』収録資料：約 600 点（撮影予定：169 点）
- ・『高知小津高校資料』：101 点（撮影予定：24 点）

(6) 撮影作業進捗状況

- ・『安芸市旧役場文書目録』収録資料の予定分撮影終了
- ・『高知小津高校資料』：未撮影



資料撮影の様子

4 委員による個別調査

(1) 小幡副部長

高知市春野町弘岡上公民館（元の弘岡上村役場）所蔵資料の調査・撮影。

(2) 小堀委員

高知商工会議所所蔵資料（明治～昭和の月報等）の調査、撮影、目録作成

(3) 羽賀部会長

オーテピア高知図書館及び県立歴史民俗資料館所蔵の寺石正路関係資料の調査

(4) 谷川委員

高知小津高校（旧制海南中学）所蔵資料の調査（3月合宿調査）

(5) 飯塚委員・奈良委員・小堀委員

高知市立自由民権記念館所蔵の『細川家資料』の調査（3月合宿調査）

(6) 坂口委員

高知市立自由民権記念館所蔵の農村関係資料の調査、撮影（3月合宿調査）

5 「高知県内における歴史資料所在情報（近代関係）の収集

＊現在編さん室で確認している情報は26件。

6 戦前の「高知県職員録」のデータ化

＊国立国会図書館所蔵の『職員録』（明治19年～昭和18年）、『高知県職員録』（明治10年、同17年ほか）の掲載職員名・職名・官位・勲等などをデータ化して、検索できるようにする予定。

7 明治維新についての近世部会との打ち合わせ

＊3月28日午後 岡山大学にて開催（羽賀・奈良委員及び近世の今村・東野委員が参加）

・上記委員を中心に、両部会合同の作業部会として「維新班」を設置する。

・維新班として定期的協議及び年1回の合同調査を実施する。

・最初の合同調査は7/1～2の日程、城博、オーテピアの資料が対象。

・維新班としてR6(2024)年度以降予算要求をする。

8 香川県公文書館における高知県関係資料の所在調査

（令和5（2023）年度の活動）

1 近代部会

第5回近代部会：5/21（日）開催

第6回近代部会：9月中旬開催予定（部会合同調査の最終日）

第7回近代部会：12月下旬開催予定

第8回近代部会：3月中旬開催予定（部会合同調査の最終日）

2 第1回合同調査（予定）

（1）調査資料：①『安芸市旧役場文書目録』収録資料、②『細川家資料』、③『吉良家資料』

（2）資料群の概要

①旧川北村を中心とする役場資料（明治末～昭和）

②③旧春野町の名望家層の家文書

（3）調査の日時、場所及び参加者

日 時：9月12日（火）～14日（木）

調査会場：高知市立自由民権記念館

参加者：委員、大学院生、事務局、学生アルバイト

3 第2回合同調査

(1) 調査資料：未定

(2) 調査の日時、場所及び参加者：未定

4 委員による個別調査

(1) 羽賀部会長

① オーテピア高知図書館及び県立歴史民俗資料館所蔵の寺石正路関係資料の調査

② オーテピア高知図書館所蔵『土佐図書倶楽部』調査

③ 高知県会議事録調査（予定）

④ 札所近代石造物調査（予定）

(2) 小幡副部会長

① 公民館資料調査

② オーテピア貴重資料収蔵品調査

(3) 坂口委員

① 県内の「町村是」「郡是」調査

② 区有文書調査（予定）

(4) 谷川委員

① オーテピア貴重資料調査（「小砂丘忠義文庫」「安芸文庫」「旭小学校日誌」など）（予定）

(5) 筒井委員

① 高知県立歴史民俗資料館蔵「堀見家資料」調査

(6) 飯塚委員

① 高知城歴史博物館蔵「山内家資料」に含まれる近代資料調査（予定）

(7) 維新班

① 「山内家資料」調査（予定）

② 近世～近代に又がる資料の調査（城博、オーテピア等）（予定）

5 戦前の「高知県職員録」のデータ化

5月26日現在で明治31年までが終了（精査が必要）

令和 5 年 6 月 15 日

令和 5 年度 高知県史民俗部会の活動について

1. 本年度の調査計画について

・ 令和 5 年度 合同民俗調査

本年度の合同民俗調査は 10 月～11 月の時期を目標に、梶原町地域を予定している。

①想定される調査項目

- ・ 焼畑農耕や狩猟などといった、山村の生活習俗
- ・ 梶原川流域における内水面漁業
- ・ 津野山神楽や二十日念仏をはじめとする祭礼・芸能
- ・ 大野見、東津野、愛媛県西予市など周辺地域との関わり等



梶原町四万川 海津見神社



津野山神楽

②合同調査までのスケジュール

4 月 29 日 梶原町四万川 龍王宮の春の大祭 津野山神楽調査

合同調査に向けた調査地との連絡

6 月～9 月 部内にて調査計画の検討

調査地との調整：計画に応じ、四万川以外の地区との連絡・調整を進める

10 月下旬～11 月 調査実施

2. 資料編①「ことばと伝承(仮称)」に向けて

①勉強会の開催

主な執筆にあたる予定の専門委員、県内専門家により、資料編①で扱う分野ごとに勉強会を実施し、民俗部会全体で知識の共有と内容の検討を進めている。

令和4年9月26日(月)「地名語彙について」 発表：楠瀬慶太氏

令和5年2月11日(土)「昔話・伝説・世間話について」 発表：常光徹部会長

※資料編①についての勉強会は、必要に応じて今後も実施する。

②文献リストの作成

県史編さん室民俗担当職員にて、県内の民俗に関する文献リストを作成中。現在、『土佐民俗』全100巻分が完了し、県内自治体誌(昭和以降のもの)の民俗編のリスト化を進めている。今後は資料編①に向け、県内の伝説・昔話集など、口承文芸に関する資料集の作業を重点的に行う予定。

3. 高知県史民俗編 本編の構成案について

本編の構成については、梅野委員が作成した構成案を元に検討する。

4. 個別調査

令和5年2月12日 大豊町

参加委員：川島委員

「山の民俗」全般について、地域の住民へ聞き書き調査を実施。

令和5年2月13日 高知市横浜

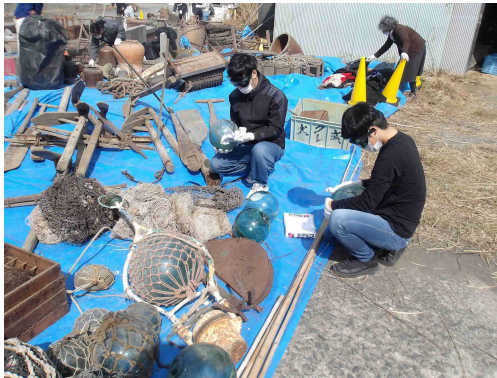
参加委員：川島委員

「エガニの刺し網漁」について、地域の住民へ聞き書き調査を実施。

令和5年3月4日～5日 中土佐町鎌田港 民具調査

参加委員：梅野委員 中村委員

中土佐町鎌田港の倉庫に保管されている民具資料の調査を実施。國學院大學の石垣悟准教授、高知大学から5名、國學院大學から3名計8名のアルバイトと、四国民具研究会員からの協力を得、倉庫内の民具資料のクリーニング、撮影、リスト化、整理を行った。撮影が完了したのは計470点。未撮影の民具資料もまだ多くあるため、今後も継続して調査を計画していく。



民具調査風景

令和5年3月11日 土佐山田町

参加委員：常光部会長

阿波塚の伝説などについて、
地域の住民へ聞き書き調査を実施。



阿波塚

令和5年3月25日 中土佐町上ノ加江廣埜神社 太刀練り 芸能調査

参加委員：佐藤副部会長 梅野委員

中土佐町上ノ加江の廣埜神社で行われる太刀練りへの調査を実施。



上ノ加江の太刀練り

令和5年6月14日 中土佐町大野見

参加委員：常光部会長

四万十川上流淡水漁協 大野見支部長へ聞き書き調査を実施。

古代・中世部会の発足と第1回部会の概要

1 これまでの日程

- 3月15日(水) プレ部会の開催 於東京大学史料編纂所
 正副部会長および委員候補全員+編纂室(南チーフ)
 部会発足にむけた確認・調整および史料編纂所架蔵高知県関連史料の調査
- 4月1日 古代・中世部会担当チーフ(目良)、会計年度任用職員(野本)の着任
- 5月13日(土) 第1回古代・中世部会 於高知県 県史編さん室(高知県自治会館)

2 古代・中世編の構成案・刊行計画

古代・中世部会が担当するのは、古代から慶長5年の山内入国までを原則とし、資料編3巻、本編1巻の計4巻の刊行予定。構成案は下記の通り。

【資料編】

- 古代・中世史料Ⅰ 令和10年度刊行予定
 古代関係史料 編年配列・綱文主義
 中世県内所在文書 郡別・家分・編年配列
- 古代・中世史料Ⅱ 令和13年度刊行予定
 県外所在文書 地域別・家分・編年配列
 長宗我部氏関連史料(慶長5年以降もカバーする必要)
- 古代・中世史料Ⅲ 令和16年度刊行予定
 記録・典籍・聖教類・奥書・金石文・文学関連史料
 海外関係史料

【本編】

古代・中世 令和20年度刊行

原始・古代から山内入国まで。文献以前については特に考古部会との調整が必要。

→出版・印刷状況の急速な悪化が進行しており、束の大きな書籍を低廉に刊行できるか不安な情勢、さまざまな状況の変化に対応しうよう想定しておかねばならない。

3 業務フローの整備について

(1) 収載史料群の基礎台帳整備

*旧県史・各種編纂物・地名事典類・論文などから、本県関係の古代・中世史料を抽出する作業フローを整備し、当該史料の複製データ(謄写・影写・デジタル)の有無を確認してゆく。

・・・編さん室と史料編纂所にて円滑に分業するスタイルを確立する

*複製データが既にあるものについては、委員・編さん室とデジタル共有を実現してゆく。

・・・クラウドの導入による効率的な共有環境を整備

(2) 史料テキストの整備

＊(1)の作業にもとづき、収載予定史料のテキスト整備を進める。

旧県史のテキスト化は完了、これに各種DBなどからテキストデータを追加。

調査・校訂作業の基礎データを集積してゆく。

(3) 史料編纂所における受託研究の実践(2023年5月1日～)

本県史編さんを史料編纂所の業務として位置付けることにより、同所に蓄積されたリソースを共有して編さん事業に利活用する。5月から大学院生の雇用(週1人日)を通じて、編さん室との協業により上記(1)・(2)の作業を推進する。

4 史料調査について

3に示した作業の進捗に応じて、未撮影史料の調査・撮影を推進してゆく。令和5年度は、オーテピア高知図書館・高知県立歴史民俗資料館・高知城歴史博物館など県下の公的施設が所有・管理する古代・中世史料の網羅的な追跡を行う。

【当年度の予定】

- ・5月14日 行宗文書調査(オーテピア高知図書館)
- ・8月下旬～9月上旬 高知県立歴史民俗資料館など

撮影方式は史料編纂所のそれを用い、撮影データはRAWとJpegの両形式を生成して、史料編纂所と編さん室で共有する形をとる。



5月13日 第1回部会



5月14日行宗文書調査

令和 5 年 6 月 15 日

令和 5 年度 現代部会の活動状況**1 第 1 回現代部会の開催（プレ・ミーティング、令和 5 年 3 月 28、29 日）****（1）配布資料**

- ・『高知県史 現代編』編さんの留意点
- ・『高知県史 現代』の分担案の考え方
- ・現代部会の開催と調査の方針についての方針
- ・現代部会 調査活動について（予備調査、今後の調査）
- ・オーテピア「高知資料」自治体広報誌閲覧記録
- ・県史編さん関係基本資料

（2）主な話し合い**1）『高知県史 現代編』の編さんにあたって****① 特に「くらし」の内容・範囲**

- ・「くらし」と「生活」のちがいはどこにあるのか。また農業・漁業とのつながり → 「くらし」には、衣食住にとどまらず、歴史・文化などより幅広い内容を含む

同時に、そのことに誇りを持つ人の活動も含まれる

- ・境界線上のテーマをどう扱うか。また、「くらし」担当者の役割

（eg）医療・福祉、住民運動、地域づくり（eg 砂浜美術館等）、行政・市民のパートナーシップ

→ 「くらし」を掲げているのは、「政治行政」「経済産業」「教育文化」といった既存の枠組から外れるようなテーマを拾い上げるのが狙い。したがって、各分野から「接点」のあるテーマを発見し、それを持ち寄るようにしてはどうだろうか。それを素材に、2 年後ぐらいに議論し、必要ならば分野の再構成もありうる。

② 以上の議論などを通じて、「高知の現代の特色」について随時、部会で話し合う**③ 固有名詞の考え方****2）調査の前提となる文献・教材について**

- ① 手がかりとなる文献
- ② 今後に必要な作業＝文献リストの作成

3) 調査活動について

- ① 予備調査の紹介
- ② 第2回合同調査打合せ（令和5年夏季） 幡多地域、調査テーマを出し合う
- ③ 個人調査の実施と県史研究の進め方、情報共有 県民への成果還元
- ④ 自治体調査のポイント 総務課（教育委員会）、議会事務局、郷土資料+広報誌
- ⑤ 「撮影と動画」のプロジェクトチームをつくり、打合せを開始する

4) 部会活動について

- ① 直接の部会及び合同調査 2回ずつ開催
- ② オンライン部会 2回開催
- ③ 令和5年度について
 - 第1回部会と合同調査（3月28日、29日）
 - オンライン部会 6月
 - 第2回部会と合同調査 夏季
 - オンライン部会 10月～2月
 - 部会と合同調査 3月

5) その他

検討課題 「現代部会通信」の発行 調査先とのつながりを深めるため

2 第1回合同調査の開催（3月29日）

- (1) オーテピア高知資料見学
- (2) 高知県公文書館見学
- (3) いの町「紙の博物館」 資料視察
- (4) 旧上東小学校で地域活動の担い手である田岡重雄氏から話をうかがう

3 令和5年度

- (1) 第1回「撮影と動画」のプロジェクトチームの開催（オンライン、5月18日）
 - 撮影場所、撮影対象者、撮影方法、撮影と聞き書きの講座開催
- (2) オンライン部会の開催予定（6月20日）
- (3) 夏季合同調査と部会の日程確定と調査予定（8月28日～31日）
 - ・宿毛市：ビキニ被爆者支援活動
 - ・黒潮町：砂浜美術館、集落活動センター
 - ・旧西土佐村：満州移民、過疎地診療
 - ・土佐清水市：図書館・学校関係、漁業・水産加工関係
 - ・大月町：漁業・養殖、保健医療

(4) 文献リスト等の作成開始(事務局)

県内自治体史の目次のリストアップ

年鑑類・学校副読本等による年表・資料作成

(5) 須崎市教育委員会保管史料「上原商店資料」の借用・閲覧(5月10日)

戦後高知の「くらし」分析の先行調査

(6) 安芸郡芸西村久重山村「久重会」聞き取り調査(8月1日)

戦後「集団移転」を経験(現在1戸2人)

同窓会組織による地域の継承

考古部会 令和5年度 第1回編集委員会資料

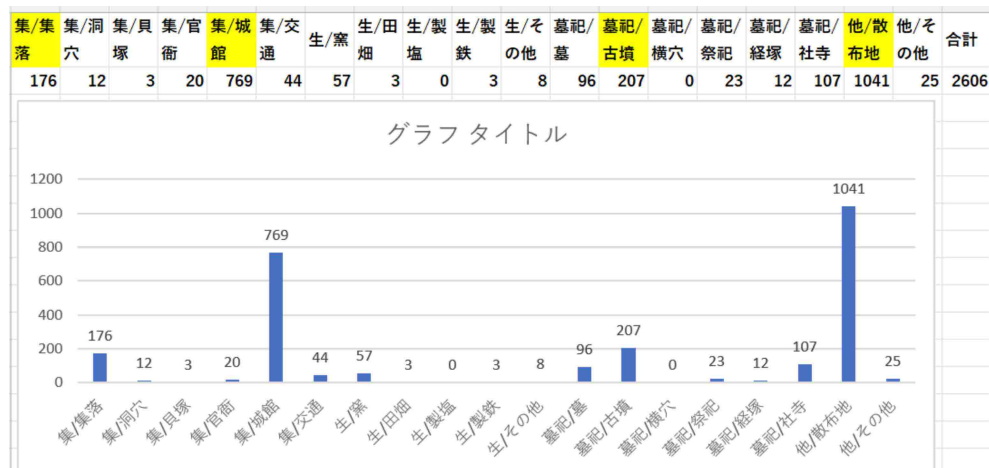
1、資料編と本編の編集編纂構想イメージ

(1) 基本情報

①合計数2606（非散布地は約6割）

②補正遺跡数

旧石器（17）、縄文（193）弥生（288）、古墳（345）、古代（290）、中世（861）、安土桃山（38）、近世以降（191）



(2) 資料編掲載遺跡数の算出

①先行事例の1遺跡平均ページ数→青森県史と愛知県史の遺跡記述は平均3頁（A4版）

②資料編の掲載遺跡数

資料編1→旧石器・縄文（210）＋弥生（288）＋古墳（345）＝846非散布地遺跡

1遺跡あたり3頁平均時の掲載遺跡数→旧石器・縄文（67）＋弥生（91）＋古墳（109）

資料編2→古代（290）＋中世（861）＝1151非散布地遺跡

1遺跡あたり3頁平均時の掲載遺跡数→古代（75）＋中世（225）

資料編3→安土桃山（38）＋近世（191）＝229非散布地遺跡

1遺跡あたり3頁平均時の掲載遺跡数→安土桃山（13）＋近世（63）

③資料編の調査計画

- A、旧石器・縄文時代は年間最大23遺跡の調査を3年間
- B、弥生時代は年間最大30遺跡の調査を3年間
- C、古墳時代は年間最大27遺跡の調査を4年間
- D、古代は年間最大25遺跡の調査を3年間
- E、中世は年間最大32遺跡の調査を7年間
- F、安土桃山・近世以降は年間最大25遺跡の調査を3年間

(3) 編集編纂コンセプト

★資料編 客観的評価により新規性を加えた既存情報の再評価

- ①時期の認定（必要であれば年代測定）
- ②遺物の種類や形式と型式・様式等の認定（必要であれば科学分析や数量化）
- ③遺跡の種類と性格のをふまえた歴史的な意味の認定（遺構の配置と構成要素の記述）

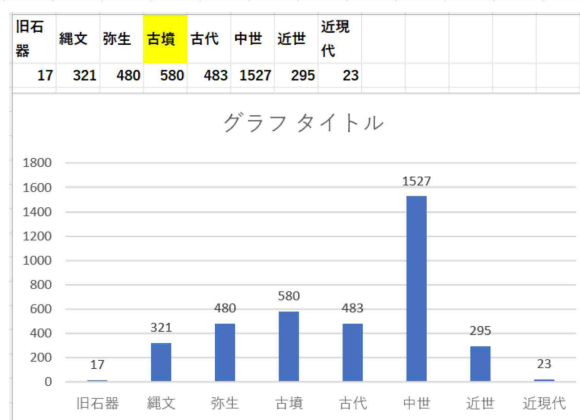
★本編 新情報を加えた新たな歴史叙述

県歴史文化財課および市町村と連携した重要遺跡発掘調査等への協力

(4) 資料編の構成案

①資料編1

「高知県の考古学研究と調査の記録」（100頁）、編年、概説、旧石器・縄文時代67遺跡（200頁）、弥生時代91遺跡（272頁）、古墳時代109遺跡（328頁）



②資料編 2

編年、古代75遺跡（290頁）、安土桃山時代を除く中世遺跡225遺跡（675頁）

③資料編 3

編年、安土桃山・江戸以降76遺跡（200頁）（高知城と城下町・野中兼山関係・遍路関係）＋戦跡、水中遺跡、遺跡以外の重要遺物（石造品、金属製品、金石文関係、石碑、棟札など）、資料編1・2未掲載の国と県の史跡と指定考古文化財など）

※石造品は量が読めず2023年度から全体調査をすすめる必要がある

（5）本編の構成案

①ストーリー 人類のあけぼの、古代国家の成立、南海道ネットワーク、長宗我部の時代、山内の高知城・・・大きな変遷の中で地域毎（郡毎）の書き方もありか）

②新規性

A、旧石器から古墳時代 資料編1の調査・執筆に見通しがついた時期から4年間（2028R10～2031R13年度）で重要遺跡の発掘調査等に協力し、その成果をふまえた新たな歴史を叙述する。

B、古代から中世 資料編2の調査・執筆に見通しがついた時期から4年間（2032R14～2035R17年度）で重要遺跡の発掘調査等に協力し、その成果をふまえた新たな歴史を叙述する。

2、スケジュール

資料編①												R13	R14	R15
2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035		
65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77		
資料編②												資料編③		

（1）タスクの整理

- ①遺跡数が最も多い中世山城の調査計画は2023年度内に松田副部長が作成
- ②遺跡から高知県の歴史を語るために必要な発掘調査等の候補選定（県内関係者の意向調査）
- ③学史関係文書資料の調査
- ④県立歴史民俗資料館、市町村、学校、個人、遍路など県の調査資料
- ⑤県内博物館等所蔵関係データの共同利用体制の構築

（2）おおまかな年度計画

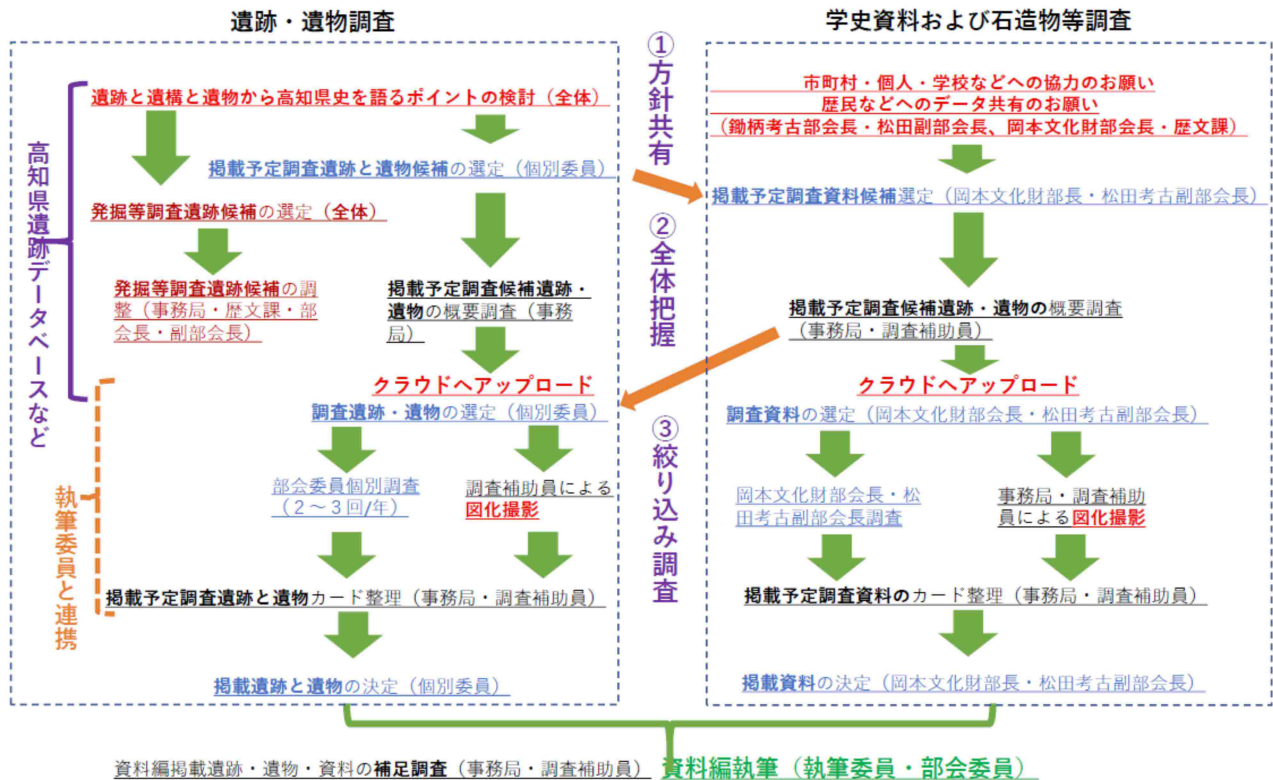
- 春期と秋期に県内の重要遺跡確認調査を兼ねた調査報告と翌年度調査計画全体会議
- 部会内の部分的なりモート会議とチャットは随時
- 2024～2027年度は旧石器～古墳時代部会委員は年2～3回の重要遺跡と遺物の県内調査
- 2024～2025年度は岡本文化財部会長を中心に年に2回の県外学史調査

3、人材育成関係

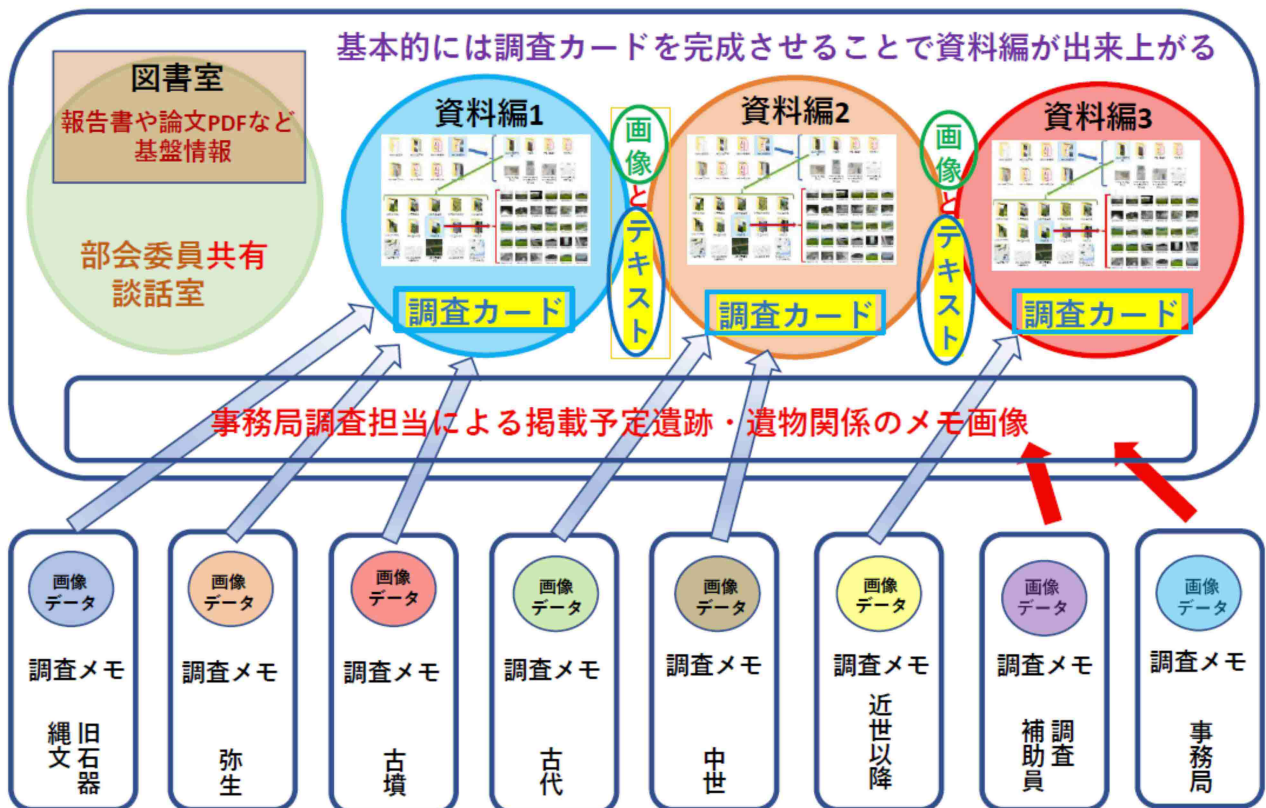
4、2023令和5年度計画

- （1）全県遺跡のPDF以外の先行研究調査および県史跡の確認調査
- （2）県民にわかりやすい重要考古資料の選定
- （3）第1期成果報告へ向けた重要山城の調査
- （4）市町村への関連資料調査（所蔵資料と水中遺跡・戦跡など）協力をお願い開始
- （5）準備会議の開催
- （6）水中遺跡と戦跡については歴史文化財課と共同で対象遺跡の協議と整理を開始
- （7）重要遺跡発掘等調査候補の選定

考古部会の作業段取りイメージ



高知県史考古部会クラウドイメージたたき台



考古部会スケジュール構想

西暦	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	
令和	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
鋤柄	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	
	遺跡数				資料編1	資料編1	資料編1	資料編2	資料編2	資料編2	資料編3	資料編3	資料編3	本編	本編	本編	本編		
学史																			
旧石器	17	調査			執筆			発掘調査等協力											
縄文	321																		
弥生	288																		
古墳	348																		
古代	289.8	予備調査																	
中世	1150	調査						執筆			発掘調査等協力			他部会連携調整					
安桃以降	387																		
戦跡					安土・桃山以降委員														
水中遺跡					安土・桃山以降委員														
石造品					安土・桃山以降委員														
金属製品		古代委員						弥生・古墳委員			執筆								
棟札					安桃以降委員														
		Ⅰ期						Ⅱ期						Ⅲ期			Ⅳ期		

2022令和4年度予備調査



第545図 野市町亀山窯跡出土の古瓦

平安宮域出土瓦と関係（香南市）



推定瑞應寺跡（南国市）



谷重遠墓（香美市）



掩体壕 (南国市)

2023令和5年度計画

- (1) 全県遺跡のPDF以外の先行研究調査および県史跡の確認調査
- (2) 県民にわかりやすい重要考古資料の選定
- (3) 第1期成果報告へ向けた重要山城の調査→10～3月で10回程度
- (4) 市町村への関連資料調査（所蔵資料と水中遺跡・戦跡など）協力をお願い開始 →令和4年3月25日の高知考古学研究会で先行挨拶とお願い

→歴史課での協力お願いは例年の8月頃の連絡会でおこなう

(5) 準備会議の開催

(6) 水中遺跡と戦跡について、歴史文化財課と県史のクラウドを共有して情報の蓄積と検討をはじめる

※包蔵地登録以外の水中遺跡事例

- ・大月町柏島
- ・[土佐清水市爪白海底の石柱群](#)

国立研究開発法人海洋研究開発機構 高知コア研究所

→ <https://www.jamstec.go.jp/kochi/j/news/20190710.html>

- ・[アジア水中考古学研究所](#)



図1 黒田郡伝承と海底遺構・橋梁物の情報が確認されている地域。いずれも南海地震後に沈没する地域といえる共通点がある。

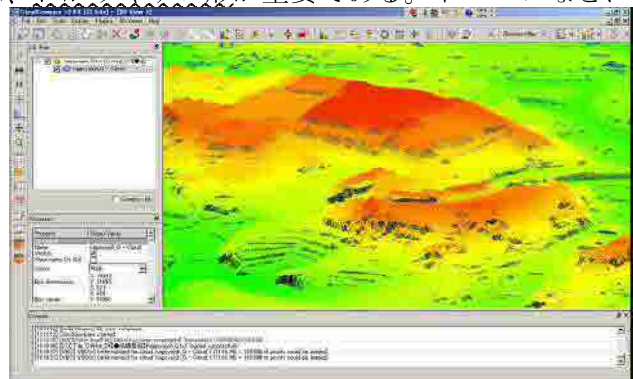
(7) 重要遺跡発掘等調査候補の選定

(8) 遺跡やさまざまな文化財の3次元資料作成意義の普及

遺跡や文化財調査の県民への成果還元には、わかりやすい形が重要である。ドローンなどによる3次元測量は、遺跡や考古資料や文化財などを、2次元の図面や写真ではなく、元の姿に近い3次元での視覚化を可能とする。これは新しい調査・研究法であると同時に、これからの時代にふさわしい、誰にでもわかりやすい成果公開の形として大きな意義を持つ。

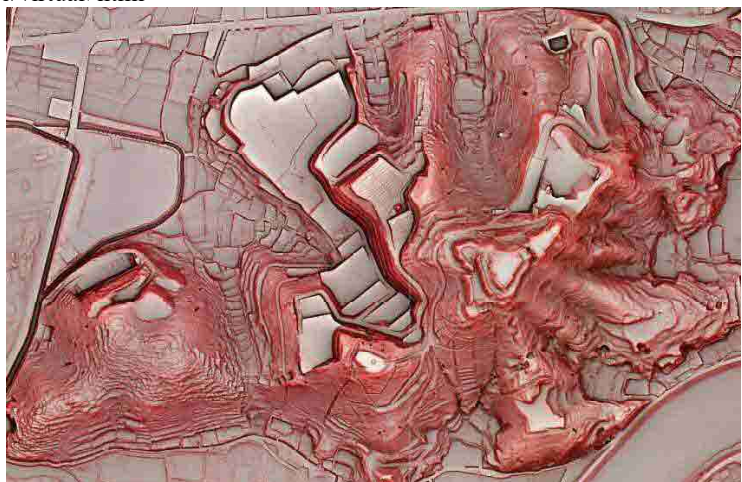
[名護屋城博物館のオープンデータ](#)

<https://saga-museum.jp/nagoya/nagoya-castle/virtual.html>



平成22年度史跡岡豊城跡 赤色立体地図→

『史跡岡豊城跡保存管理計画書』
南国市・南国市教育委員会（平成24年）



県指定史跡（令和４年度）

吸江庵跡	392014	高知市	高知市五台山	昭和28年 1月29日
鹿持雅澄邸跡	392014	高知市	高知市福井町	昭和 38年 7月 5日
赤鬼山	392014	高知市	高知市朝倉	昭和 25年 2月 7日
谷時中墓	392014	高知市	高知市長浜	昭和28年 1月29日
朝倉古墳	392014	高知市	高知市朝倉	昭和 25年 4月21日
朝倉城跡	392014	高知市	高知市朝倉	昭和28年 1月29日
長宗我部元親墓	392014	高知市	高知市長浜	昭和28年 1月29日
貞享元年銘法華経塔(五台山の経塔)	392014	高知市	高知市竹林寺	昭和 54年 4月 1日
南学発祥地	392014	高知市	吾川郡春野町	昭和28年 1月29日
能茶山山上窯跡	392014	高知市	高知市鴨部	昭和 47年 5月 6日
佐喜浜経塚	392022	室戸市	室戸市佐喜浜町	昭和28年 1月29日
安芸国虎墓	392031	安芸市	安芸市黒鳥浄貞寺	昭和28年 1月29日
小蓮古墳	392049	南国市	南国市岡豊町	昭和28年 1月29日
土佐国衙跡	392049	南国市	南国市比江	昭和 38年 7月 5日
高岳親王塔	392057	土佐市	土佐市高岡町	昭和28年 1月29日
貞享元年銘法華経塔(宿毛の経塔)	392081	宿毛市	宿毛市押ノ川	昭和 54年 4月 1日
一条教房墓	392103	四万十市	中村市	昭和28年 1月29日
坂本遺跡窯跡	392103	四万十市	四万十市坂本	平成21年 3月17日
紀夏井邸跡	392111	香南市	香美郡野市町	昭和28年 1月29日
宝鏡寺(香宗我部菩提寺)跡	392111	香南市	香美郡野市町土居	昭和 52年 3月29日
山田堰	392120	香美市	香美郡土佐山田町	昭和 27年 5月31日
津野親忠墓	392120	香美市	香美郡土佐山田町	昭和28年 1月29日
貞享元年銘法華経塔(甲浦の経塔)	393011	東洋町	安芸郡東洋町甲浦	昭和 54年 4月 1日
二十三土墓	393037	田野町	安芸郡田野町	昭和28年 1月29日
中岡慎太郎宅跡	393053	北川村	安芸郡北川村大字柏木	昭和 43年 6月28日
帰全山	393410	本山町	長岡郡本山町	昭和28年 1月29日
横倉山	394033	越知町	高岡郡越知町	昭和 27年 5月31日
吉村虎太郎宅跡	394114	津野町	高岡郡東津野村芳生野	昭和 44年 8月 8日
柏島石堤	394246	大月町	幡多郡大月町	昭和28年 1月29日
田ノ口古墳	394289	黒潮町	幡多郡大方町	昭和28年 1月29日
有井庄司墓	394289	黒潮町	幡多郡大方町	昭和28年 1月29日

県	鰐口	いの町	いの町立本川新郷土館
県	横倉山修験関係遺品	越知町	横倉宮、高市神社、大毘羅神社
県	梵鐘	香南市	長谷寺
県	袈裟襷文銅鐸	香美市	大川上美良布神社
県	梵鐘	高知市	禅師峯寺
県	文殊菩薩坐像懸仏	高知市	竹林寺
県	梵鐘	高知市	竹林寺
県	梵鐘	高知市	妙国寺
県	銅矛(中村市石丸出土)	四万十市	四万十市郷土博物館
県	銅矛	四万十町	高加茂神社
県	虚空蔵菩薩坐像懸仏	室戸市	最御崎寺
県	高岡山古墳群出土遺物(二号墳関係)	宿毛市	宿毛市立宿毛歴史館
県	賀茂神社石造層塔	須崎市	賀茂神社
県	大谷の四国遍路板碑	須崎市	
県	久礼の四国遍路板碑	中土佐町	
県	大野見竹原熊野神社の熊野三山本地仏懸仏	中土佐町	
県	銅戈	中土佐町	中土佐町立美術館
県	鰐口	津野町	津野町郷土資料館
県	銅造鏡像(懸仏)	土佐市	清滝寺
県	高知城伝下屋敷跡出土木製品	南国市	高知県立埋蔵文化財センター
県	居徳遺跡群の出土遺物	南国市	高知県立歴史民俗資料館
県	懸仏の弥陀三尊と銅製狛犬	南国市	高知県立歴史民俗資料館
県	高岡山古墳群出土遺物(一号墳関係)	南国市	高知県立歴史民俗資料館
県	三社神社の木板彩画懸仏	南国市	高知県立歴史民俗資料館
県	三上八幡宮の鉄釣燈籠	南国市	高知県立歴史民俗資料館
県	山川阿弥陀堂の地藏板碑	南国市	高知県立歴史民俗資料館
県	石茶臼	南国市	高知県立歴史民俗資料館
県	注口土器(高岡郡窪川町仕出原出土)	南国市	高知県立歴史民俗資料館
県	銅剣・銅戈(吾川郡伊野町天神出土)	南国市	高知県立歴史民俗資料館
県	銅矛(南国市遅倉出土)	南国市	高知県立歴史民俗資料館
県	波介出土の銅矛	南国市	高知県立歴史民俗資料館
県	伏原大塚古墳出土埴輪	南国市	高知県立歴史民俗資料館
県	梵鐘	南国市	高知県立歴史民俗資料館
県	葛原神社の御正体類	日高村	葛原神社
県	小村神社の仁治・貞和の棟札	日高村	小村神社
県	小村神社の蓬萊鏡	日高村	小村神社
県	阿弥陀如来懸仏	日高村	八幡神社
県	袈裟襷文銅鐸	馬路村	熊野神社
国	銅剣	香南市	兎田八幡宮
国	金銅荘環頭大刀拵／大刀身	日高町	小村神社
国	銅鐘	室戸市	金剛頂寺
国	銅鐘	宿毛市	延光寺
国	梵鐘	土佐市	正念寺
国	梵鐘	南国市	国分寺

資料情報の共有（クラウド）について

1 目的

各専門部会にて調査で得たデータ等を委員間同士で迅速に共有するため

2 概要

構 成 人 数：53 人

内訳） 委員（編さん編集委員・専門部会委員） 小計 47 人

事務局（専門部会担当・総務） 小計 6 人

※ 導入段階では関係団体は構成外とする

使用可能容量：116 T B

1 アカウントに対し、2 T B のストレージプールが付与される

上記構成人数で合計 116 T B が使用可能

※ 導入段階では個人が利用するデータ容量に制限は設けませんが、
運用する中で変更する可能性があります

導 入 時 期：令和 5 年 7 月以降

3 システム利用条件

導入初期段階では詳細なルールを作成することは困難

下記条件の下、各部会にて試験運用を行い、部会事情に応じた利用方法を検討していく

○ フォルダについて

- ・専門部会委員のみで構成される各部会毎の共有フォルダを作成
- ・共有フォルダ内の階層は各部会判断とする
- ・その他共有フォルダを作成する際は、各部会の同意を得てからとする

○ 機能について（クラウド外）

- ・原則、各機能にて取り扱うデータは県史編さん事業にて組織される委員のみとする
付与されるアカウントを利用し、委員以外との間でデータのやりとりを行ってはな
らない
- ・県史編さん事業外の目的で使用しないこと

○ 権限について

- ・各部会と調整を図り、事務局が設定・変更を行う

4 Google Workspace 各種機能

i) ドライブ

ファイル保存、共有が可能なオンラインストレージサービス

遠方でのデータ共有、各端末からの使用が可能

使用可能データ： ドキュメント、スプレッドシート等の Google ファイル

Word や Excel のファイル、写真、動画 等

ii) メール

目的のメールを素早く探し出すことが可能

メール自体にパスワード設定が可能であり、情報保護に最適

ドライブやカレンダー等の各機能と連携しており、大容量のファイル転送が可能

iii) チャット

メールをより簡略した、メッセージ機能

グループを設定し、参加メンバーにて情報交換が可能

メール同様、各機能と連携しているため、ファイルの共同閲覧等が可能

iv) その他機能

カレンダー、Meet（ビデオ会議）、ドキュメント・スプレッドシート・スライド 等

5 今後の導入方法

- ・まずは、調査で得たデータを迅速に共有できるよう、ドライブ内に 8 つの共有フォルダを事務局が作成する
- ・フォルダの構成委員は各部会委員及び担当事務職員のみとする
- ・各部会により、取り扱う資料の性質や考え方は異なるため、使用方法是各部会に委ねる
- ・使用するにあたり、操作方法や修正等あれば、その都度事務局へ報告し対応する

第 1 期の成果をまとめた冊子の刊行について（検討案）

1 刊行の趣旨

- ・ 新たな『高知県史』の編さんは、相当の予算と人員を要する事業であり、県民の皆さまのご理解とご期待に応えるためにも、できるだけ早期に成果を示すことが求められる。
- ・ しかしながら、「資料編」は令和 8 年度から、「本編」は令和 16 年度からの刊行を予定しており、県史本体の成果の還元には一定の時間を要する。
- ・ このため、編さん期間の各期に 1 回は、資料調査など編さん過程の成果を取りまとめ、分かりやすく魅力ある刊行物を発行することで、県史編さんの成果を還元していく。

2 編集の基本的な方向

- (1) 新たな『高知県史』を編さんする必要性を説明し、県民のご理解とご協力をいただける内容とする。
- (2) 本県の歴史などに関する貴重な資料を紹介し、資料の持つ意義や歴史の魅力が伝わるとともに、地域に伝え残された貴重な財産であることが理解できる内容とする。
- (3) 本書を活用することで、学校や地域などでの学習や、観光など地域活性化にもつながる内容を心がける。
- (4) 記述の内容は、歴史に関心を持つ高校生が理解できるレベルとする。

3 題名

『新たな高知県史へのいざない（1）』

4 構成

(1) 取り扱う分野

本書の編集を開始する令和 6 年度までに設置される専門部会（古代・中世、近世、近代、現代、民俗、考古）が調査した資料の紹介を基本とする。

(2) 判型

A 5 版 縦書き（もしくは B 5 版）

(3) ページ構成（【 】内は想定ページ数）

①口絵（資料や調査風景の写真）【1～2】

②巻頭言【1】

執筆：知事

③目次、凡例【1～2】

④第 1 章 県史編さん事業について【8～10】

執筆：事務局

内容：背景や目的、編さん基本方針、スケジュール、第 1 期計画の成果 など

⑤第2章 新たな高知県史へのいざない【表紙1、資料部分48～72】

執筆：専門部会委員、事務局専門部会担当

内容：各専門部会調査成果、資料の価値や地域との関係を記した資料紹介

○ ページ構成（案）

資料1点につき4ページ、見開き2枚を想定

各部会ごとに資料2点の場合 $4 \times 12 = 48$ ページ

各部会ごとに資料3点の場合 $4 \times 18 = 72$ ページ

その他検討案 … 資料1点ごとのページ数を流動的にする

先行部会（近世・近代・民俗）は資料数を増やす など

○ 記載項目

資料紹介 … 写真、資料解説（文学資料なら翻刻も）

調査内容 … 調査のきっかけ、方法（ex. 学生と一緒に）、調査風景

トピック … 新しく判明したこと、これまで知られていなかったこと

資料編・本編との関係 … 紹介した資料がどのように扱われるか

→ 現段階での記載は避けたほうがよいか

⑥コラム・調査こぼれ話【6】

執筆：事務局専門部会担当

内容：⑤をさらに掘り下げた資料紹介や調査時のエピソード

ミニクイズコーナー（ex. 民具クイズ）、くずし字講座 など

⑦第3章 「ひろがる！県史編さん」【6】

執筆：事務局

内容：・「歴史資料調査隊」養成講座の概要と様子、参加者のコメント

・県史編さん室での撮影・調査風景、参加者のコメント

・自治体訪問の成果、各関係団体職員のコメント など

⑧おわりに【1】

執筆：監修者

⑨引用資料、文献等一覧【1】

⑩関係者一覧（監修者、委員一覧、協力者、事務局）、奥付【2】

（4）想定ページ数

各専門部会紹介資料2点（8ページ）の場合 75～79 ページ

各専門部会紹介資料3点（12ページ）の場合 99～103 ページ

5 刊行スケジュール案

令和5年度：タイトル、内容、形式、執筆体制等の検討

令和6年度：執筆

令和7年度：校正 ⇒ 第1巻刊行

令和12年度：第2巻刊行 令和17年度：第3巻刊行

『高知県史』編集方針 <近世編> (案)

1. 『高知県史』の目的

新たに刊行する『高知県史』は、「高知県史編さん基本方針」(令和3年10月20日決定)の「2 目的」に掲げる次の項目に基づき編さんを進める。

- 1 本県の歴史的な変遷を明らかにする。
- 2 県民の歩んできた歴史への理解を深め、郷土への愛着を育む。
- 3 本県の歴史資料を悉皆的に調査し、県民共有の財産として後世に伝える。
- 4 本県の学術及び文化の振興に寄与する。
- 5 本県の歴史研究を担う人材を育成する。

2. 『高知県史』近世編における編集の基本的な方針

- (1) 近世編が対象とする時代は、原則として土佐山内氏の入国(慶長5(1600)年)から高知藩の廃藩(明治4(1871)年)までとし、本県の近世期の特色やあゆみが理解しやすい構成とする。
- (2) 掲載する項目は特定の分野に偏ることなく、政治や社会・経済、文化などの様々な分野をバランスよく取扱い、本県近世期の全体像を捉えることができる内容とする。
また、本県が歩んできた「一国＝一藩＝一県」の歴史的特性を踏まえつつ、一方で土佐一国のうち各々の地域性にも注目し、地域の視点を大切に記述を心がける。
- (3) 近世編では、全国的にも注目される時代や分野(例えば幕末期、災害と防災など)について取り扱い、本県の近世史の特色のみならず、現在の日本史学における研究水準と成果を反映することを目指す。
- (4) 前回の高知県史以降に得られた最新の調査・研究の成果を十分に反映させるとともに、悉皆的な調査により新たな歴史資料の発掘に努める。
また、本県の近世史に興味を持つあらゆる人々が、自らの学習・調査をする際に活用できるよう、なるべく本編と資料編の連携に配慮する。
- (5) 歴史資料調査や編集の過程では、できるだけ多くの県民や団体に参画してもらい、今後の本県の歴史調査・研究を担える人材の育成を重視した編さんを行う。

『高知県史』近世編（本編）が対象とする分野・項目

（１）政治

- 藩政全般
 - ・藩政
 - ・藩主
 - ・幕藩関係
 - ・法制、職制
 - ・村役人
 - ・身分
- 財政
- 軍事、海防

（２）社会と経済

- 地域社会
 - ・城下町
 - ・土居、在郷町
- 産業
 - ・郷分、農業
 - ・山分、林業
 - ・浦分、漁業
 - ・工業
 - ・商業
- 経済
 - ・土地
 - ・租税
 - ・流通、交通

（３）文化とくらし

- 学問、教育
- 宗教、思想
- 文学
- 美術
- 生活、ライフコース
- 女性史
- 民衆運動
- 災害、防災

<備考>

- ・ 前ページの「目的」と「基本の方針」に基づき、各分野と項目に関する資料調査を実施。
- ・ 幕末期は、（１）～（３）の分野、項目を調査するなかで別途整理し目次立てする。

県史編さん費 令和5年度予算の概要

1 編さん体制の構築

- ・編さん委員会を1回、編集委員会を2回（必要に応じて3回）開催
- ・本年度より古代・中世、現代部会が立ち上がり、既存の近世、近代、民俗部会を加え、計5つの専門部会を設置
- ・各部会に8名の委員（正副部会長を含む）及び2名の職員（正職員1名＋会計年度任用職員1名）を配置

2 歴史資料調査（古代・中世、近世、近代、現代、民俗の5部会）

①県内での資料調査等に要する経費（3泊4日）

古代・中世部会 年1回の集合調査と年1回の個別調査（計2回、全委員分）

協力者 地域の歴史に詳しい方（調査の同行や下準備等に1日2名程度）

近世、近代部会 年2回の集合調査と年1回の個別調査（計3回、全委員分）

協力者 地域の歴史に詳しい方（調査の同行や下準備等に1日2名程度）

講習を受けた県内の学生（史料の撮影や整理等に1日8名程度）

専門性を持つ県外の院生（調査カードの作成等に1日8名程度）

現代、民俗部会 年2回の集合調査と年1回の個別調査（計3回、全委員分）

協力者 地域の歴史に詳しい方（調査の同行や下準備等に1日2名程度）

講習を受けた県内の学生（史料の撮影や整理等に1日8名程度）

②県外での資料調査等に要する経費（3泊4日）

全5部会とも 東京圏の資料調査を年1回想定（1部会当たり委員2名分）

③県史編さん室での資料調査等に要する経費

全5部会とも オープンピアでの資料調査や事務室でのデータ整理を想定
（1部会当たり学生アルバイト50日×2名分）

④東京大学史料編纂所への調査委託に要する経費

古代・中世部会 1名の院生が史料編纂所にて週1日程度の調査を想定

3 人材育成・広報啓発

- ・郷土の歴史及び県史への関心を高めるための講演会を開催
- ・学校や団体等の要請に応じて、歴史に関する出前講座を実施
- ・県内の歴史系文化施設と連携し、資料調査隊の養成講座を実施
- ・県の文化広報誌「とさぶし」や県の広報媒体を活用し、県史の編さん状況や本県の歴史の魅力を発信